

トップメッセージ

SUBARUらしさを進化させ、
「笑顔をつくる会社」を目指します

代表取締役社長 CEO
中村 知美

環境・社会課題の変化と ありたい姿実現に向けた取り組みの加速

急激な環境変化への対応

2025年のありたい姿を示した中期経営ビジョン「STEP」の発表から3年が経過しましたが、この間、私たちを取り巻く環境は、想定を超えるスピードで変化してきました。気候変動問題をはじめとする環境課題への対応に加え、SDGsの達成に向けた社会からの要請やCASE^{※1}領域の技術革新への対応など、自動車業界にとってはまさに100年に一度の変革期となっています。

さらに、新型コロナウイルス感染症の世界的流行によって、新しい働き方への移行が加速するなど、企業の存在価値や企業の姿勢そのものがあらためて問われています。

SUBARUグループでは、いち早く「新型肺炎対策本部」を立ち上げ、感染予防と安全確保に努めながら事業活動を続けてきました。また、ITインフラの強化やフレックス制度のコアタイム廃止を含む就労規則の見直しを行うなど、ニューノーマル時代の働き方改革を遂行しました。今後も、同感染症の状況を注視しつつ、ステークホルダーの皆様の安全確保に注力すると同時に、新型コロナウイルス感染症拡大がもたらした様々な変化をポジティブに捉え、お客様や市場の期待に応えていきます。

※1 Connected (コネクテッド)、Autonomous (自動運転)、Shared & Services (シェアリング・サービス)、Electric (電動化) の頭文字をとった造語。

中期経営ビジョン「STEP」のもと、CSRの取り組みを推進

この3年間、SUBARUグループでは「STEP」の重点取り組みとして、「組織風土改革」「品質改革」「SUBARUらしさの進化」を全社一丸となって推し進めてきました。「意識を変え、行動を変え、会社を変える」を合言葉に愚直に取り組んだことにより、進捗への手応えを実感しています。また、SUBARUグループとしての社会的責任、持続的な社会への貢献に対する期待に向けた取り組みや体制についても拡充してきました。SUBARUグループでは、事業の強みを活かして社会課題を解決し、持続可能な社会の構築とSUBARUの持続的成長の両立を目指して、「CSR重点6領域^{※2}」を中心としたCSRの取り組みを積極的に行っており、2020年度は、「CSR重点6領域」の各領域が貢献するSDGsを明確にしました。今後も、「SUBARUらしさ」を大切にしながら、SDGsの達成に貢献し、社会の皆様やお客様と共に、「愉しく持続可能な社会の実現」を目指します。

※2 「人を中心とした自動車文化」「共感・共生」「安心」「ダイバーシティ」「環境」「コンプライアンス」の6領域。

着実に前進させたSUBARUらしい CSRの取り組み

CSR重点6領域の取り組みの着実な進捗

事業活動を通じて社会の課題解決に貢献していくには、世の中の変化や世界の情勢を知るという意味においても、グ

ループ・グローバルでCSRの取り組みを進め、浸透させることが重要です。そのため、2020年4月に、グループ・グローバルの従業員が意思を共有できる「SUBARUグローバルサステナビリティ方針」を制定し、CSR重点6領域の取り組みを加速させました。

6領域のうち、「安心」については、「STEP」の最重要テーマの一つとして掲げた「品質改革」を継続して実施しています。品質はSUBARUブランドを支える大事な根源であり、私たちがお客様に提供できる付加価値の源泉です。そのため、「品質改革」の土台として品質最優先の意識の徹底と体制強化を行い、従業員一人ひとりに「品質最優先」の意識を浸透させてきました。さらに、初期の検討段階からの開発・設計に至る開発の源流そのものの「生まれの品質の改革」と、生産準備段階以降での不具合の流出防止とスピード感ある対処に取り組む「つくりの品質の改革」の2方向で改革を推進しています。共に着実に進んでいますが、まだ道半ばであり、いち早くお客様や市場から「不具合が減った」「対応のスピードが速くなった」と評価いただけるよう、愚直に前進させていきます。

また、「2030年に死亡交通事故ゼロ^{※3}を目指す」ことに私たちは本気で取り組んでおり、着実に進捗しています。安全・安心はSUBARUの強みであり、予防安全としての「アイサイト」や「スバルグローバルプラットフォーム」での衝突安全性を向上させてきました。その結果として、日本においては、年間約3,000件の死亡交通事故のうち、「アイサイト」を搭載



したSUBARU車に関連する死亡交通事故は年々減少し、2019年には過去5年に初度登録されたSUBARUの登録車に関連する死亡交通事故は3件^{※4}となりました。このことは、SDGsのターゲット3.6「2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる」という目標に貢献していると言えます。2020年に発売した新型「レヴォーグ」にはアイサイトの安全機能をさらに高度化した「新世代アイサイト」を搭載した他、万が一の事故の際でも事故の状況に応じて救命手配をする「つながる安全」も強化しました。今後は、さらなる知能化を進めて、高度なセンシング技術とAIの判断能力を融合し、あらゆる場面で安全性を高めていきます。

「環境」については、SUBARUの事業フィールドである「大地と空と自然」が広がる地球環境保護が、社会とSUBARUの持続性を可能とする重要テーマと捉えています。持続可能な社会の実現のため、環境中期計画「環境アクションプラン2030」を策定し、2050年カーボンニュートラルの実現を目

指すべく、商品の電動化に向けたマイルストーンを2020年1月の技術ミーティングにて発表しました。当面はEV（電気自動車）とハイブリッド車で電動車比率を高めていきますが、将来的にはモーター駆動に置き換わっていくと予測しています。そのようなEVの時代であっても、SUBARUの安全性能の優位性は変わることがないうえ、AWD（全輪駆動）の制御知見を緻密かつ応答性の高いモーターでより活かせると考えており、走りの安定性、動的質感、操る楽しさといった「SUBARUらしさ」は一層高められると考えます。

加えて、SUBARUグループが独自の価値創造を続けるためには、多様性を尊重し、働きやすい職場環境を整備していくことが重要であると認識しています。多様性を尊重することが商品のダイバーシティにもつながると考えており、「ダイバーシティ」は従業員と商品の両方の側面から捉えています。「従業員のダイバーシティ」では、特に日本国内で最重要課題である女性活躍において、女性管理職数の目標を前倒しで達成したことから、「2025年までに女性管理職を2021年時点の2倍以上」とする新たな目標を設定しました。「商品のダイバーシティ」では、トヨタ自動車と共同開発するEV「SOLTERRA（ソルテラ）」の2022年の年央の発売など、電動化の時代においても「SUBARUらしさ」を強化しつつ、社会の期待に応えていきます。

※3 SUBARU乗車中の死亡事故およびSUBARUとの衝突による歩行者・自転車などの死亡事故をゼロに。

※4 公益財団法人交通事故総合分析センターのデータをもとにSUBARUが独自に算出。

人権尊重に対する不断の取り組み

2020年度は、「CSR重点6領域」の基盤となる「人権方針」を制定し、「一人ひとりの人権と個性を尊重」するSUBARUグループとして、人権尊重のための取り組みを推進しました。具体的には、ビジネス上の人権リスクを特定し、その対応策を策定・実行する人権デュー・ディリジェンスを人事、調達部門から開始しましたが、今後は、サプライチェーンを含めたビジネスパートナーなどのステークホルダーにも本方針に基づく働きかけを実施していきます。

CSRの取り組みは、この3年間、まさに一歩一歩進めてきたものであり、SUBARUグループに浸透させることができたこと実感しています。私は2014年から2018年まで、Subaru of America, Inc.に赴任していましたが、そこでCSRや人権に対する取り組みに触れ、多民族国家の米国と日本との文化の違いを肌で感じてきました。今後も、その経験を活かしながら、課題にしっかりと向き合ってSUBARUらしい取り組みをグループ・グローバルで推進し、2025年のありたい姿の実現を目指していきます。

人、社会、地球までも笑顔にしたい

SUBARUのありたい姿とは「笑顔をつくる会社」です。これは、私たちがお客様の振る舞いから学んだことでもあります。

SUBARUでは「安心と楽しさ」を不変の提供価値として、安全性・耐久性・走破性などの機能面を進化させてきました。そうした努力が実を結び、お客様が自らの人生に照らして、

SUBARU車の価値を語っていただけるようになりました。例えば、安全性の面では「事故が少なく、大事な家族や仲間を安心して乗せられる」、耐久性の面では「長く使えて資源を無駄にしない」「長く使うことで多くの大切な思い出をクルマと共に紡げられる」といったようなことです。つまり、機能価値がお客様の体験を通じて情緒価値へと昇華し、「他とはちょっと違うSUBARUとおお客様の深い関係」が生まれており、お客様がSUBARUに感じるこのような“Different”こそがSUBARUの大切な財産であると言えます。

私たちSUBARUは、お客様が感じるDifferentをさらに磨き上げることでお客様の笑顔をつくり、さらにはその笑顔の輪をステークホルダーの皆様や社会、地球に広げていきたい。そして、今後もステークホルダーの皆様と対話を進め、皆様から愛されるSUBARUであり続けられるよう尽力してまいります。

代表取締役社長 CEO

中不子知美